



西野博志さん
蒲郡市観光協会事務局長

観光協会では、蒲郡競艇を、観光がまごおりの貴重な観光施設の一つと考えています。そのため、平成15年度から競艇事業部と協力して、

競艇場の来場者の皆さんに、蒲郡市温泉郷の「ペア宿泊券」を抽選でプレゼントする企画を行い、大変好評をいただいております。そして、その他の企画として、市内ホテル・旅館に宿泊された方を競艇場来賓席に無料でご招待しております。昨年度は、418人の方が利用されました。また、事業部が発行する新聞広告や出走表、チラシなどにホテル・旅館名も掲載していただき、温泉郷のPRにつなげています。

今年は、愛・地球博の影響で市内の宿泊施設もにぎわっています。20年前は年間150万人ほどであった市内宿泊者も、最近では90万人程度まで落ち込んでいます。今後、観光業界と競艇のタイアップで「競艇で、ホットなレースを楽しみ、温泉で、ほっとくつろいで」をキャッチフレーズに、多くのお客様に喜ばれる企画を用意して、蒲郡へお客様を呼び込みたいと思っております。

知恵を出し合い さらなる発展を！



太田和徳さん(清田町在住)
現役競艇選手、
モーターボート選手会
愛知支部前支部長

私の初出走は、昭和48年、20歳のときで、ここ蒲郡競艇でした。当時は、売り上げが右肩上がりの時代で、電話投票の制度もなく、

スタンドにはファンの皆さんがいっぱいいて、大歓声だったのを覚えています。近年、この競艇場も来場者は減り、売り上げが思わしくないのでと危機感を持っています。売り上げを確保するために、選手一人ひとりがしっかりと走るの当然ですが、施行者さんたちと協力をしてファンの皆さんに喜んでいただくイベントなども行っています。

例えば選手会愛知支部では、毎年、蒲郡競艇で「チャリティーオークション」を行い、収益を市社会福祉協議会に寄付しています。蒲郡競艇は、市の財源として貴重な存在だけでなく、多くの人の職場として、とても大切な財産。これを守るために、施行者、選手、関係者が、知恵を出し合って収益確保に努力することが必要だと思います。

競艇一ロメモ

競艇の場合、売り上げがすべて収入になるわけではありません。売上げの75%が払戻金に、そして、残りの25%からさらに、法律により、次の3つの組織に定率で納めることになっていきます。(法定交・納付金)

- ①財団法人船舶振興会へ3・4%。
- ②愛知県モーターボート競走会へ1・05%。競走の運営、選手の管理などを行います。
- ③公営企業金融公庫へ1・2%。このお金は、全国の上下水道の整備などに使われます。

これ以外にも、岡崎市への交付金、競艇情報化センターへの使用料、電話投票負担金などがあります。

50年の歩みパネル展

写真パネルで、蒲郡競艇の50年を振り返ります。ぜひ、ご覧ください。

市役所ロビー
8月1日(月)～5日(金)
蒲郡競艇場
8月11日(木)～16日(火)
図書館
9月3日(土)～13日(火)